

令和元年度 第2回川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会 報告書
～人生100年時代を見据えた安心して暮らせる住まい、住まい方とは～

日時：令和2年2月7日（金）18：00～19：30

場所：ソリッドスクエア地下1階ホール

参加人数：85人

令和元年度第2回目となる今回は、参画団体を101団体に拡充し、グループディスカッションを取り入れた手法での開催となりました。各自で書き出した「考え方」や「意見」をグループ内で共有・整理し、最後に全体に向けて発表し内容を共有しました。



市長挨拶

平成26年に地域包括ケア推進ビジョンを策定し現在第2段階にある。川崎市における人口増加の勢いは衰えていないが、超高齢社会への突入や世帯構成の変化など、この30年間で市内の状況が一変する中で持続可能な社会をつくるためには、地域包括ケアシステムが必要不可欠であることを日々感じている。本日は「人生100年時代を見据えた安心して暮らせる住まい、住まい方」について色々とお意見をいただきたい。

1. 市内の活動紹介「地域と共に育む充実した暮らし -NRE新川崎弥生テラスの取り組み-」

報告者：NRE新川崎弥生テラス 施設長 岡田 雷太 氏

NRE新川崎弥生テラスは「COTONIOR GARDEN（コトニアガーデン）新川崎（※）」内に立地しており、「介護を必要とする人々が街の中で暮らし続けるために、どのようなサポートが必要か」を常に考え、シニアと子育て世代をつなぐ拠点づくり等の活動に取り組んでいる。

「老人ホームを拠点に街の中に出て暮らす」というコンセプトの下、当施設は介護付き有料老人ホームをメインに看護小規模多機能型居宅介護事業所、居宅介護支援事業所を併設し在宅を続けたい人も対応可能としている。イベント企画の際は入居者・利用者の要望を第一優先し、実施の際は地域の人々を講師等に招く等、施設と地域をつなげるように工夫している。隣接する保育園とも連携し、入居者・利用者が赤ん坊をあやすなど一緒に日常を過ごしており、入居者・利用者にとって生きがいの一つになっている。

日中誰でも自由に入出りできる「地域交流室」は、普段から多世代が交流する場となっている。地域行事にも開放し、イベント時には入居者・利用者も楽しませる側にまわる等、地域と関わる工夫をしている。

※JR東日本グループの旧社宅跡地（約1.2ha）にて、「多世代のふれあい」「まち・しぜんのつながり」「くらしの創造」をコンセプトに多世代の交流を育む広場、広場を必ず経由する賃貸住宅・商業施設・高齢者福祉施設・認可保育園を一体開発した多世代交流型拠点。2018年春開業。

2. 川崎市における地域包括ケアシステム構築の取組（地域包括ケア推進室）

（1）地ケア構築に向けた取組（あり方検討会議）

- ・地ケア構築のための環境整備に向け「あり方検討会議」を設置、推進ビジョンに掲げる5つの基本的な視点をベースとした5つのテーマごとに現状と課題・方向性を整理し、第8期いきいき長寿プランや第6期地域福祉計画等に反映していく。
- ・今年度末までに報告書作成予定

（2）推進ビジョン第2段階における取組

①意識づくり

- ・連絡協議会への参画団体の拡充による参加者同士の連携可能性の模索、気づきを得られる場づくり
- ・戦略的広報の推進（パンフレットの改定、「市政だより」の活用、マンガの作成など）
- ・認知症サポーター養成講座の開催

②仕組みづくり

- ・在宅医療の充実と医療・介護連携の強化（入退院時における医療機関と在宅介護の連携強化などの実施）
- ・包括的な相談支援の推進（全世代・全対象型の地域リハビリテーション体制の構築、各分野の支援体制の強化）

③地域づくり

- ・地区カルテ等を活用した地域マネジメントの推進、地域との対話の仕組みづくり
- ・ボランティア活動振興センターやかわさき市民活動センターなどによる支援を推進し、ボランティア、NPO、町内会、自治会等の支援に向けた取組を推進

ディスカッションで話し合いました！ ～人生100年時代を見据えた安心して暮らせる住まい、住まい方とは～

市内で活動する保健・医療・福祉関係団体、市民公益活動団体、青少年支援団体、民間企業（金融、不動産、鉄道・運輸、通信、配達、飲食サービス等）、大学等研究機関等、多種多様な団体からの参加者が8つのグループに分かれ、互いに交流を深めました。さらにテーマに関する考え方・意見を各自書き出し、グループ内で共有・整理した上で、場内全体に向けて数グループが話し合った内容の発表を行いました。主な意見をご紹介します。



- <凡例>
 ◎：最も大事だと思う要素
 ○：◎に関連する要素
 ●：そのほか出てきた要素

Aグループ

◎多世代（つながる/安心）コミュニティを見据えた住まい方

家族（親）の見守り／ご近所の人がSOSを出せるご近所関係の構築／声かけ、見守りをしてくれる近隣の人がいる／世代を超えた地域／相談できる人が大勢いる／声を掛けて話をすることを心がける／地域のニーズに地域で向き合い、解決に向け必要などところにつなげる／共助が当たり前に行える街／地域コミュニティへの積極的参加→声かけ運動／独居高齢者を対象とした食事会の開催／自宅近くにコミュニティの場がある／空家の管理

- 身近な医療
- 住環境の整備
- 企業力のある地域
- 災害に備えた地域の団結力



Bグループ

◎専門能力を活かした役割の場

仕事を供給できるコミュニティ／知識や経験を活かすことができるコーディネーター、場づくり／保育園、幼稚園、小・中・高のPTA⇄一人暮らし、子育て終了世代、高齢者、企業のOB／企業としてOBの活動（高齢者向けPCやスマホ教室、外国労働者の日本語教育のフォロー）／退職後自分のスキルが何か人の役に立つと良い／現役時は仕事、子育てに力を入れて、その後は地域に貢献したい／自分の趣味が他人の喜びにつながる

○地域（住民）の情報を知ることができる

同じ立場の人たちがどこにいるか分かる（ネット、SNS、防災・防犯）／地域や住宅業者が世代や家族構成のコンセプトを定める、入居時に情報公開を「あり」にしてしまう／地域の情報が手に入る、つながりをつくることのできる場づくり

○教育の場でコミュニティの重要性を！

コミュニティ・コミュニケーションの重要性の浸透→義務、学校教育

- 年齢や障がいに関わらず、安心して暮らせるハード・設備
- 街のあり方 ●災害時の支援
- 多世代交流 ●居場所
- 住民が互いに見守る関係性活動



Cグループ

◎生活圏の中の助け合い「近助」

何でも相談できる人や場所の確保／困った時に助けてくれる近隣の仕組みがある／近所の人と気軽に楽しく交流ができる／助けてと言える、助けてに気がつける地域の中でのつながりづくり／近所の住民の情報がある程度知っておく必要がある／顔の見える仲間づくり／最後まで安心して生活できる知恵（知識）

- 豊かな暮らしにつながるコミュニティ
- 誰もが参加しやすい場づくり
- 当事者目線のしくみづくり



Dグループ

◎コミュニティ（場など）

子育てしやすい環境をつくり、地域の連携を！／母子に優しい環境を！／障がいがあっても参加できる、活動の場所がある暮らし／若者たちにライフワークを考える機会をつくる／男性が集える場、健康マージャンなど／近隣・職種間の交流／地域カフェ

◎コミュニティを活性化する機能
 窓口の一本化／相談・案内だけでなく近隣とのつながりを促す／どこに行けば良いのか、分かる、知る／断らない介護

- 健康づくり ●バリアフリー
- 生活のしやすさ ●空き家活用



Eグループ

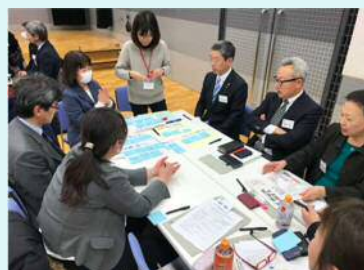
◎おせっかいシステム

チケット制でボランティア等を依頼できる／地域情報の共有・連携（共助）／困っている人を見つけるように世話を焼く／毎日近所の方に声かけ／つなげる力（健康アセスメント、話す相手、健康指南役）／隣人の近況が分かる付き合い

○例えばこんな場所で

- ①山と共に豊かに暮らそう（地方創生／徘徊自由／シェアハウス／子どもたちの融合／自然との融合／安心して死ぬ町／お金の管理／インフラ整備）
- ②仲間と暮らそう（高齢者は他人のためにできる事をする場をつくる／一人暮らしでも孤独を感じない関係性のある街／困っていることを笑い飛ばせるよう、世の中の資源を最大限活用／体調の悪い時、声かけできる人がいる／交流の促進、地域コミュニティの豊かなまちづくり／先ずは子どもから大人まで挨拶をする）
- ③オープンな居場所づくり（安全第一、オープンな家／家にいるだけで地域の子どもの見守りができる環境／近所に気軽に話ができる場所がある／近所に居場所づくりをして集まれるようにする）

- 高齢者が情報にアクセスしやすく（分かりやすい情報の提供とサポート）
- 安全安心な家とメンテの仕組み
- バリアフリーな家とまちづくり



Fグループ

◎近所のコミュニケーション

自分ができる事を隣所に伝える／身の回りのことを助けてくれる人が近くにいる／助け合う、支え合う仕組みができると良い（町内会、自治会の強化など）／ご近所付き合いがあり、コミュニケーションを取れている／感性を豊かにする文化事業

- 生涯学習 常に学びの場
- 住み慣れた町で質の高い生活を
- 地域ネットワークによる見守り
- 自分の事はいつまでも自分で！
- 住まいの循環と仕組みづくり



Gグループ

◎地域コミュニティの重要性

個人情報の開示等／町内会への加入推進と地域コミュニティの重要性の説明／地域コミュニティと様々な関わりをもつ事で企業の社会的責任を保つ／町内、近所とのつながり強化／訪ねてきてくれる近所の人たちがいる／個人のライフスタイルに関わらず「集える場所」というものをつくりたい／孤独死を減少させる住居問題の解消／毎日おしゃべりできる場所が近くにある／駅、商店等が近くにある利便性／コンビニが一人暮らし高齢者を支えている／町内会、老人会、児童館を活性化できれば

- 防災を通じた近所づきあい
- 安心して暮らせる住宅
- その人らしい生活
- 健康寿命の延伸



Hグループ

◎地域との関わり

歳を取っても自分のできる事に力を発揮して地域社会と関わっていききたい

◎近くに商業施設があること

歩いて行けるとところに店や人の集まる場所がある／近所に何でも買えるスーパーマーケットがある

◎孤独死を防ぐ見守り、働きかけ

孤独死しない見守り／近所の人を見かけなくなったら情報を共有する／近所の人と何でも話ができるような関係ができる／独居、社会的孤立が進む中での関係づくり＝居場所／上からの福祉を受けるより、相互にできる事、得意な事で助け合える関係をつくる

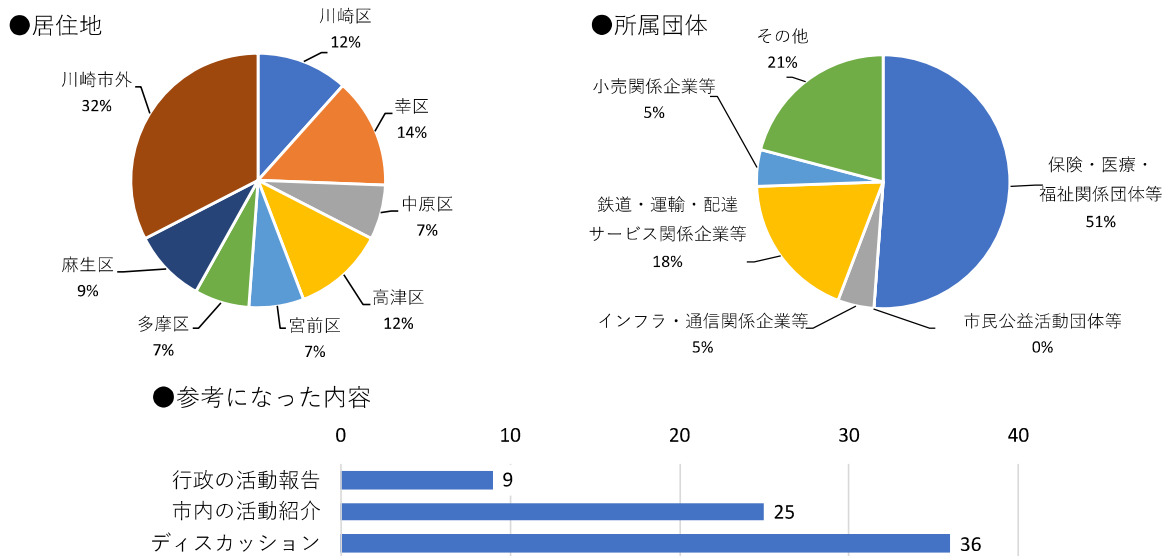
◎多世代交流

多世代交流施設／子どもと大人が地域活動的な関わりがあると良い／子どもと高齢者の交流、二世帯住宅も少なくなっているので高齢者にも子どもの声を

- 趣味のある暮らし
- 食の視点での支え合い
- 介護サービス・見守り
- 緑のある環境
- バリアフリー
- 障がいがあっても地域で支え合える



【参加者のアンケート結果】(n=43)



●今後の連絡協議会で行ってほしい内容等

(1)市内の活動紹介（紹介してほしい分野など）

- ・各業種別の取組
- ・福祉分野以外の活動
- ・「つながり」が大きなテーマだと思う
- ・地域活性化のために活動している方のお話(NPOなど)
- ・子育て支援、子ども、家問題

(2)行政からの活動報告（聞きたい内容など）

- ・具体的なビジョンや取組、施策
- ・行政の補助活動
- ・横の機関の報告

(3)ディスカッション（希望するテーマなど）

- ・具体的課題に対する話し合い
- ・老後の生活について、働き手の確保
- ・各業種の現場で活動している方々の話を聞きたい

●情報交換シートの活用方法に対する意見、要望など

- ・他のグループの人のシートも見たい
- ・様々な職種の情報、専門分野を明確にして互いに知りたい・伝えたい情報等を発信する内容（ルールとして連絡相談はメールを基本とする）
- ・毎回書くのは大変なので前回のものをベースにしてほしい

●連絡協議会員同士の連携に対する意見、アイデアなど

- ・各団体の特色・強みを活かして何ができるのかを意見交換することも必要ではないか
- ・区ごとの集まりで地域の問題点を共有できると思う
- ・会員の専門分野の課題を掘り下げていければ
- ・せっかく知見のある方々が集まっているので、具体的な取組ができると良い
- ・連絡協議会から生まれた成果を報告してほしい
- ・アイデア出しを次回のグループワークにしてはどうか

●グループディスカッションに対する意見、取り上げ方が良いテーマなど

- ・もう少し時間がほしい
- ・分野の違う人とディスカッションできて有意義だった
- ・地域性の違いについて

●川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会についての意見・希望

- ・平時と災害時でも対処できるように話し合いが必要
- ・住み替え支援者ネットワークが重要・大切だと思う、住宅政策の見直しをすべき（駅前のワンルーム規制等）
- ・成功事例の視察等
- ・訪問時、声かけ時の個人情報の取り扱いをどうするか
- ・方針が抽象的でピンと来ないので「ここが問題で、そこを変えたい」というスタートだと良いと思う

懇親会（交流会）の御報告（同日 19：30～）

連絡協議会終了後、ソリッドスクエア地下1階ホールにおいて交流会を開催しました。歓談中は、連絡協議会で発表していないグループによるディスカッション内容の発表などが行われ、和やかな時間があっという間に過ぎました。

次回連絡協議会でも交流会を開催しますので、ぜひご参加ください。